小・中学生 作文コンテスト
「私が思う 20 年後の八王子」作品集

小・中学生作文コンテスト「私が思う 20 年後の八王子」

市制１００周年を迎える子どもたちが、八王子の過去・現在に関心を持ち、そこからつながる八王子の未来・自分の未来を自由に想像してほしい。そして、心に描く夢や希望の実現に向けて、「今、自分ができることは何か」を考えてほしい。

青少年対策地区委員会や学校など、子どもたちの健やかな成長を支える多くの人たちのこうした願いにより「小・中学生作文コンテスト」が平成２９年４月に開催されました。

テーマは、「私が思う２０年後の八王子～その夢に向けて、私ができること・大切にしたいこと～」。作文で自分の考えを表現することができる学齢を考えて、応募対象は小学４年生から中学３年生としました。

コンテストには、9,８４４人もの子どもたちが参加し、小学校のなかには、より多くの児童が作文のテーマを理解できるよう、自己の経験や身近な地域に目を向ける学習を行ったところもありました。また、中学校では、作文により友人の思いに触れ、ともに地域を探索し学び合うなど、まちづくりの一員として新たな一歩を踏み出した学校もありました。

この作文コンテストを通じて、私たち大人は、子どもたちが「今ある良さを引き継ぎ、未来を切り拓いていきたい」という力強い意志を抱きながら、健やかに成長していることの確かさを実感することができました。

そしてもう一つ。「未来は自分自身が創っていくものである」ということを改めて気づかせてくれました。子どもたちの夢や希望に満ちた上位入賞３１作品をどうぞお読みください。

作文受賞作品一覧

小学生の部

【八王子市長賞】

船田小学校　　4年　伊藤　帆花　「私がのぞむ二十年後の八王子」

【教育長賞】

第五小学校　　5年　山田　千裕　「ずっと幸せな街で」

【八王子市青少年対策地区委員会連絡会長賞】

館小学校　　5年　熊谷　柊登　「未来に必要な力」

【八王子市公立小学校長会長賞】

宮上小学校　　6年　小野　心巳　「大切にしていく、実現していく八王子」

【オリジナル賞】

二十年後も平和であるために
散田小学校　　6年　原田　陽菜　「八王子が二十年後も平和であるために」

今あるよさを大切に
楢原小学校　　6年　下地　朱胡　「私が思う 20 年後の八王子」

八王子一番のシェフに
下柚木小学校　　4年　萩　陸斗　「ぼくが思う二十年後の八王子」

農業とらく農がさかんな八王子
みなみ野君田小学校　6年　斎藤　瑞生　「農業とらく農がさかんな八王子」

自然と伝統を受け継いで
鑓水小学校　　6年　竹内　真央　「私が思う二十年後の八王子」

夢にむかって
上柚木小学校　　5年　鳥羽　一花　「夢にむかって」

【優秀賞】

みなみ野君田小学校　4年　小林　千恵　「子どもの命を助ける仕事について、八王子を明るい町にしたい」
恩方第二小学校　　5年　田邉　明花　「いつまでも残っていてほしい自然」
宮上小学校　　4年　福田　千漣　「20 年後の八王子」
鹿島小学校　　4年　両角　玲香　「二十年後の八王子」
秋葉台小学校　　4年　稲見　栞凛　「地域の人とのかかわり」
城山小学校　　5年　工藤　詩織　「私が思う二十年後の八王子」
元木小学校　　6年　渡邉　樹莉翔　「私が思う二十年後の八王子」
由井第三小学校　　4年　宮崎　晴香　「私が思う二十年後の八王子」
長沼小学校　　5年　尾﨑　琴梨　「大切な八王子」

作文受賞作品一覧

【佳　作】

由井第二小学校	６年	佐藤　広子	「これからも笑顔の八王子」
上柚木小学校	４年	富永　実優	「20 年後の八王子」
片倉台小学校	６年	天野　真有	「20 年後の自分」
清水小学校	４年	三山　智貴	「未来の八王子」
元八王子東小学校	５年	垂水　秀信	「八王子と祭り」
元八王子東小学校	５年	遠井　想和	「文化財残る八王子」
第二小学校	５年	平野　陽人	「八王子に『ここにしかないもの』を」
上川口小学校	５年	安田　千恵	「私が思う二十年後の上川」
清水小学校	６年	井上　里菜	「二十年後の八王子」
第四小学校	６年	小見　夏穂	「私が思う二十年後の八王子」
愛宕小学校	６年	久保　里彩子	「二十年後の八王子」
七国小学校	６年	倉中　結衣	「ずっとすてきな八王子」
楢原小学校	６年	坂井　七海	「私の町八王子の未来」
第四小学校	６年	坂倉　花南	「二十年後の八王子」
川口小学校	６年	関口　かれん	「私が考える二十年後の八王子」
柏木小学校	６年	鶴田　実里花	「有名なダンサーがたくさんいる町」
松枝小学校	６年	西室　陽日	「私の好きな音」
散田小学校	６年	浜田　真衣	「二十年後の未来」

作品数　小学生の部　37 作品　　※学年は受賞当時 2017 年度（平成 29 年度）

本誌には、小学生の部　優秀賞以上 19 作品を掲載しています

作文受賞作品一覧

中学生の部

【八王子市長賞】

長房中学校　　２年　日暮　雅　「僕らの未来計画　～輝かそう八王子～」

【教育長賞】

第一中学校　　２年　中山　太洋　「語り継ぐ『八王子空襲の記憶』」

【八王子市青少年対策地区委員会連絡会長賞】

南大沢中学校　１年　田辺　玲子　「私が思う二十年後の八王子」

【八王子市立中学校長会長賞】

松木中学校　　２年　羽田　優月　「人と人とのつながりが深い町」

【オリジナル賞】

過去も未来も感じられる観光のまちへ

第五中学校　　１年　成瀬　大門　「私が思う 20 年後の八王子」

高齢者が輝く八王子

横山中学校　　３年　峯尾　了理　「高齢者が輝く八王子」

伝統あふれるまちへ

打越中学校　　３年　楠元　結乃　「伝統あふれるまちへ」

【優秀賞】

城山中学校　　２年　三浦　元　「小さな親切」

別所中学校　　３年　井口　彩霞　「私がつくる二十年後の八王子」

第一中学校　　２年　安達　大翔　「二十年後の八王子」

由井中学校　　２年　川越　啓斗　「変えたくないもの」

南大沢中学校　１年　田中　友菜　「今以上に良い町に」

作文受賞作品一覧

【佳　作】

松木中学校	２年	橋本　歩実	「私が思う『二十年後の八王子』」
鑓水中学校	１年	煤田　ほの花	「変える、小さな努力で」
館中学校	２年	櫻井　陽乃	「未来の八王子」
浅川中学校	１年	五十嵐　杏月子	「二つの自立」
石川中学校	１年	小池　冬花	「残したいもの」
石川中学校	１年	柴田　瑞生	「今の自分ができること」
七国中学校	１年	苗村　諒	「歴史を守り、後世に伝える」
第五中学校	１年	中村　真琴	「私が思う二十年後の八王子」
上柚木中学校	１年	野谷　麻菜	「未来のために私ができること」
宮上中学校	１年	森田　果恋	「20 年後の笑顔」
元八王子中学校	２年	小山　愛斗	「緑」
みなみ野中学校	２年	藤井　啓輔	「少年スポーツの聖地」
第二中学校	３年	鈴木　佳生	「私が思う 20 年後の八王子～ その夢に向けて私ができること、大切にしたいこと」
鑓水中学校	３年	竹内　大地	「私が思う『二十年後の八王子』」
別所中学校	３年	竹家　桜海	「グローバルなまち八王子」

作品数　中学生の部　27 作品　　※学年は受賞当時 2017 年度（平成 29 年度）

本誌には、中学生の部　優秀賞以上 12 作品を掲載しています

八王子市長賞

私がのぞむ二十年後の八王子

船田小学校　４年　　伊藤　帆花

二十年後、私は３０才になっています。その時の八王子は、今より少し都会っぽくなっていると思うけれども、私は変わらず自然あふれる、やさしくてだれでも居心地の良い街であってほしいです。春は浅川のさくら並木の美しさ、夏の暑さにも負けない、はく力ある八王子祭り、秋は高尾山の紅葉と夕焼けの景色、冬はたまにふる雪での雪遊びなど、どの季節も八王子でしか楽しめないことで私は大好きです。だから自然をこわして建物をたてたりすると、べん利で人も多く集まってくるかもしれないけど、そのためにほこらしい八王子の四季の楽しみがなくなっていくのは悲しいのです。

八王子は東京都ではあるけれども、少しいなかっぽい感じがします。それは悪い意味ではなくて、人がとてもやさしいのです。３０才になっている二十年後は、ＩＴ化も進み、家から外に出なくても何でもできてしまう時代かもしれません。しかし私は、子どもがうまれていたら私が育ってきた時と同じように近所の人となかよく遊ばせ、おみやげ交かんしたり、いっしょに学校に行かせたりと人とのふれあいも変わらず続けたいです。そのような私が思う二十年後の八王子になるために、私ができることは、そんなにむずかしくはないと思います。なぜならば、私の思っている二十年後の八王子は、「変わらず自然あふれる、やさしくてだれでも居心地の良い街であってほしい」。つまり、今のまま自然がいっぱいあり、八王子に住んでいる人みんながやさしくて、だれでもいやすい街のままでいてほしい、というたんじゅんなことだからです。この夢に向けて私ができることは自然を大切にすることと、みんなで自然をどうしたら守れるかなどについて話し合い、でた意見で、できることを実行してみたり、やさしさは、相手の気持ちを考えるなど、できることをしゅうかんにするよう心がけたりするなどして積極的に行動をすることが今の私にできることだと思います。

もし、八王子市長さんにお願いすることができるなら、緑のしばふを植えて、はだしでかけ回れるそのような公園を作ってもらって、そこで親子のコミュニケーションや、来ている人達がふれあえるような場所ができればいいなぁと思います。そして休日はその周辺を歩行者天国などにして安全で広々と遊べるようになったりしたら、とてもすてきだと私は思います。

百貨店や映画館やショッピングセンターがあるのも大事ですが、変わらない、この自然豊かな八王子をこのまま二十年後でも続けることはとてもほこらしいと思います。

教育長賞

ずっと幸せな街で

第五小学校　5年　　山田　千裕

「5、4、3、2、1、スタート!」会場の大きなかけ声の後、ピンク、ブルー、黄色、色とりどりの風船が、八王子の夜空に舞い上がっていきます。そして、後から後から女王様の宝石箱をひっくり返したみたいに、色彩がこぼれ出してきます。8月11日、夜7時。八王子市市制百周年を記念するプロジェクションマッピングが行われました。

会場の東京工科大学までは、みなみ野の駅から何台もバスが出ていたので、遠い私の家からも、迷わずに来られました。あいにく霧雨が降っていて、会場はまだまだ大勢の人が入れる広さでした。こんなに素晴しい作品は、一人でも多くの市民の人に、見て欲しかった。いいえ、もっと世界中の人に見てもらいたかったです。私は、こんなに大規模なプロジェクションマッピングを見るのは初めてで、まるで夢の世界に来たようです。とても興奮しました。7月の本物の打ち上げ花火も、とてもきれいでしたが、火薬を使わず、電気だけで光と音を組み合わせて花火を作り出す最先端の技術は、魔法のようです。まばたきするのが、もったいなくて、八王子に生まれて、本当に良かった！　と思いました。

そして、ふと画面の反対の建物をふり返ると、両方から何本も光の矢を放っています。ここから映像を送ってたんだ！光線の角度はどう合わせてるのだろう。どんな人が作ったんだろう？　どうやって、こんなに感動する映像を作ったんだろう？　この建物に入ってみたい、と中の方ばかり気になってきました。

結局、7時半からの部と、二回見て、一瞬一瞬の映像をしっかり目に焼きつけて帰りました。二十年後…私は30歳。もし市制百二十周年も、プロジェクションマッピングが行われるなら、私は作る側の人になりたい。そんな事を考えている私の横で、母が「次の機会が、もしあれば、千裕の子供と三世代で見に来られたら幸せだなぁ」と言いました。私も、そんな未来が待ち遠しくなりました。

次の日、私は母に連れられて、郷土資料館に行きました。戦時中の子供の生活展をしていました。何もかもが、古い白黒の世界で時間が止まったように感じます。昨夜のプロジェクションマッピングは、何回でも見たい、いつまでもずっと見たいと思えたのですが、この展示室にいると、むねが苦しくなって、自分だけぜいたくをして悪い事をしている気持ちになって、ここから逃げたくて、じっと見ていられません。八王子の中心街が焼け野原になった写真。麦ごはん、アザミや芋の葉のおかず。生卵1つあればごちそうで、兄弟で分け合って食べる。今の私には考えられない生活です。女の子が、可愛いウサギを7、8羽、世話をしているのですが、毛皮は軍に納め、肉は食べるためと知って、とてもショックでした。どんな気持ちで飼っていたのか、女の子も、ウサギもかわいそうでなりませんでした。欲しい物、したい遊びもがまんして、お国のために働くだけ…展示品を見終わって、私の考えは変わりました。時間が止まっているように感じた戦時中の人々は、今の私達よりもずっと一瞬一瞬を必死で生きていたのだと思いました。

人間は、優れた素晴しい物を作り出す力を持っているけれど、その力が間違った方向へ集まると、とても恐ろしく悲しい苦しみから引き返せなくなります。それは過去の話ではなく、私達が気をつけないと、また間違った方向へむかう危険があります。だから戦争の恐ろしさを忘れてはいけないと思います。二十年後の八王子も、ずっと平和であって欲しい。子供も若い人も、お年寄りもみんな安心して暮らせる豊かな街であって欲しいと一番に思いました。人は、生まれてくる時代は選べないけれど、大人になった時、自分の意志で社会をつくる事は出来るはずです。30歳になった私は、好きな工学分野の仕事に就いて、自信を持って働いていたいです。そして家族と、まわりの人を幸せにする人になっていたい。そのために、これから人間のこと、世界のこと、自分のことを深く知って、将来の仕事につながるための勉強と技術を一生懸命学びたいです。一瞬一瞬を大切にして、今の時代の八王子に生きていることに感謝して、頑張りたいと思います。二十年後の子供たちも、安心して幸せに暮らせるように、自分の仕事を通して平和を守るメッセージを発信できたら、とてもうれしいです。

八王子市青少年対策地区委員会連絡会長賞

未来に必要な力

館小学校　５年　　熊谷　柊登

ぼくの夢は、小児科の先生になる事です。ぼくは、ひふが弱く、すぐにかぶれてしまっていました。その時、橋本小児科に行っていたぼくは、お医者さんのていねいな対応と、考えてから行動に移るまでの時間の早さにおどろきました。そして、すごくかっこ良く見えました。小児科の先生は努力、体力が必要だと思います。どんなに失敗しても、あきらめない心と、出来ると信じて手術を続ける意しが大切だと思います。ぼくがかよっていた小児科の先生はその二つが備わっていたと思うからです。そのような仕事が、すごくりっぱに見えました。なのでぼくは小児科の先生になろうと思いました。

今年の夏休みに、八王子市医りょうセンター初のキッズドクターキッズナースと言う医りょうについて学ぶ体験会がありました。なのでぼくは参加して、医りょうにもっと関心を持てるようにしました。キッズドクターキッズナースでは、心ぞうマッサージを体験しました。すごく力を使うので、大変でした。おぼえる事はそれほどむずかしくは無かったけれど、マッサージをけい続する事がすごくむずかしかったです。今回、たん当してくれた現役の先生が、

「これを２４時間やっている時もあるんだよ」

と話をしていたので、ぼくはすごく体力が必要なのだな、と思いました。ぼくがやろうとしても、３０分ぐらいでつかれてしまうと思うので、すごく大変です。まるで力が消え入ったようにつかれました。ぼくは、体験している時、医りょうに集中していました。この体験会に参加して、もっと医りょうについて知りたい事やどんな事をすれば良いのか、などの気持ちになって、また新しい興味をもちました。

この体験を通して、二十年後の八王子には、子どもを守る病院が必要だと思います。昔は子どもたちを診る小児病院がありましたが、府中市に移転してしまいました。そのため八王子で２４時間子どもを診てくれる病院が無くなった事に不安を感じている人が、多いのではないかと思います。ぼくは、八王子市が発展していくうえで、子どもたちが安心して暮らせる市を作っていく事が市の人口の増加や、少子化をなくしていける事につながっていくと思います。そのためにも、大型の小児病院を作る事が大切だと思います。

今、八王子の大型病院は医りょうセンター、南多摩病院など、まだまだ数が少ないです。その中でも、子どもたちだけを診る病院はあまりありません。二十年後の八王子を想像した時に、子どもたちがいなくなり、さみしい市より今の八王子のように、自然豊かで子どもがたくさんいる元気な市でいてほしいと考えています。そのために、自分が今できる事は、将来医者になるために、勉強をして、医学の道に進めるように、努力をしていきたいです。八王子の未来を手助けできるような人になりたいです。なぜならぼくは、八王子が好きだからです。ぼくは、「未来の八王子を医りょうでつないでいくぞ」と強く心に決めました。二十年後の八王子は今よりもっと子どもたちが安心して暮らせる街になっていてほしいと思います。

八王子市公立小学校長会長賞

大切にしていく、実現していく八王子

宮上小学校　６年　　小野　心巳

市民がたくさん。笑顔たくさん。私は二十年後の八王子がこんなまちになるといいなぁと思います。私が、市民がたくさんで笑顔がたくさんな八王子になってほしい理由は３つあります。

1つ目はある日、テレビをつけた時に、ニュースをやっていました。「現在日本では少子高齢化が進んでおります」そのニュースを見た事で八王子市もふくめた全国各地で少子高齢化が進んでいる事を初めて知りました。私は、二十年後の八王子は高齢化している社会をもっと生かしていてほしいです。子供とお年よりが関わったり、お年よりが中心となれる、地域活動をさかんに行っていてほしいです。そのために私ができる事は、まずはほんの少しでも、お年よりとの交流を増やしていく事かなと思います。エレベーターで同じになった際には、あいさつを笑顔でするなどをして、お年よりの方が思わず笑顔になれるような気持ちの良いあいさつから始めていきたいです。

２つ目は、八王子には長い歴史があります。その歴史の中には戦争という、悲さんな出来事もありました。昭和２０年8月2日に空しゅうがありました。それが「八王子大空しゅう」です。この大空しゅうで４５０人もが亡くなりました。八王子にとってこの百年の歴史の中でも心にささる出来事だと私は感じます。ひがい者の方は、「一生忘れる事のできない日になった」と記録していたそうです。しかし空しゅうというざんこくな歴史を乗りこえてた７２年前の八王子の方はすごいと私はそんけいします。７２年前の方々がいなければ、今の八王子はないと思います。私が今、かいてきに暮らせているのは、昔の八王子市民の方々が緑をたくさんにしてくれたから。織物を工業としてとても発てんさせてくれたから。そのような努力があったからこそ私達八王子市民は笑顔がたくさんの生活を送れるんじゃないかなと思います。そのような努力があったからこそ今の八王子は、二十年後に市民がたくさん。笑顔たくさんを実現できるんじゃないかな、と私は考えます。そして私は７２年前なくなられた方々のように毎日前向きに生きていく事が今、私にできる事だと感じます。

３つ目の理由は自然がたくさんあるからです。八王子市は緑がたくさんあると私は日々の生活で感じています。南大沢周辺には小山だいり公園やだいりやと公園があります。だいりやと公園には緑豊かな山があり、そこで私も自然といっしょに遊ぶ事がたくさんあります。私は二十年後都市部を中心にどんどん開発が進められて自然や緑が少なくなり緑を求める人がたくさん出てくると思います。他の都市がどんどん開発されていっても八王子は緑を大切にしているといいなと思います。そして緑を求めてやってくる人達の笑顔を見たいです。今、私ができる事は緑を大切にする事です。むやみに花をぬかないなどやれる事はたくさんあります。そうやって一人一人が心がけていけば二十年後いこいの場になっているはずです。

しかし緑が多いから市民がたくさん。笑顔がたくさん。になるわけではないと思う人もいると思いますが、私が思うのは市民や笑顔がたくさんへの第一歩につながればいいなと思っています。緑を探して八王子市に住む方もいると私は思います。緑を見て、八王子市はいいなぁと思い、思わず笑顔になる方がいる。私はそう信じています。そのような事で緑が私の理想の二十年後の八王子にしてくれる事を信じています。

市民がたくさん。笑顔たくさん。そんな八王子市になったら私は八王子がもっと大好きになります。そのために今の私ができる事。それはもっと八王子をくわしく知り、他の人へと八王子を届ける事です。どんどん八王子をつないでいきたいと思っています。これからも八王子を大切にして、二十年後、市民がたくさん。笑顔たくさん。につなげていきたいと思っています。

オリジナル賞

二十年後も平和であるために

八王子が二十年後も平和であるために

散田小学校　６年　　原田　陽菜

現在、私には、八王子市の好きなところが3つあります。

1つ目は、自然が豊かなところです。高尾山周辺や、けやき通りなど多くのところに自然が残されています。春夏秋冬、周りの景色を見ると、山が桜で赤やピンクになっていたり、山全体が緑になっていたり、日が経つごとに、山が緑から茶色になっていったりします。それらを見ると、安心できたり、楽しくなってきたりします。

2つ目は、人々がみんなやさしいということです。バスが何時に来るかわからなかった時や、友だちとはぐれてしまった時など、近くにいた人が、心配して声をかけてくれたり、いっしょにさがしてくれたりしてくれるからです。だから私も道を教えてほしいと言われたら、率先して、教えてあげたいと思っています。

3つ目は、便利過ぎなくてよいというところです。便利にしようとして、便利にしすぎてしまったら、人は増えるかもしれないけれど、通勤する人などが増えて、電車が混雑したり、交通じゅうたいが多くなったりするからです。そう考えると、便利過ぎなくて、よいと思ったからです。

これからどういう八王子になってほしいか。私には3つの期待があります。

1つ目は、高尾山や高尾町や八王子市にある山々は、残してほしいと思います。なぜなら、東京都心部は都会だけど、緑が少ないので、私たちの住む八王子市は、緑を少なくせず、都会にしようとせずに、緑が多くて、心にも体にもやさしい町であり続けてほしいです。そうすれば、人口も増えると思います。また、自然の宝庫なのに、それをなくしてしまったら、日本は、緑が少なくなって、地球温暖化が進んでしまうから、地球にも、人にとっても、悪いと思うからです。

2つ目は、ポイ捨てや、タバコなどを吸わせないということです。なぜなら、タバコやビールを好んで、たくさん飲むと、体の中にがんができたり、いぞんしょうになったりとよいことが全くありません。ポイ捨てやタバコは、地球にとっても、周りの人たちにも、迷惑です。ポイ捨てやタバコなどを、吸わない地球にやさしい八王子市になってほしいです。

3つ目は、私の遊んでいる公園や、学校がなくならないでほしいということです。なぜなら、私たちの思い出がたくさんつまっているからです。もし、二十年後に子供が生まれたら、私も、その子供といっしょに、公園で遊びたいです。友達と仲よくできたのも、公園のおかげな気がします。「ありがとう」と思っているので、なくならないでほしいです。また、中学、高校と学年が上がっていくにつれて、思い出が、だんだん新しいものへと変わっていきます。昔の思い出は、忘れてしまうかもしれないけれど、公園や学校だけは、覚えていたいし、残ってほしいと思っています。

私の将来の夢は、学校の先生です。なぜなら、散田小学校の先生を見ていると、すごいと思うことがたくさんあります。伝統文化に積極的に取り組もうと八王子のことを、もっとよく知ろうと思ったのは、先生達のおかげだと思うからです。私が先生になったら、子供達に、八王子市のよい所や、伝統文化のことを教えてあげたいと思います。そして、八王子市のよい所を一人でも多くの人に知ってもらいたいと思っています。先生という職業は、夢を与える、成長するためになくてはならない存在だと思います。だから、そんな先生になりたいです。そのために、たくさん勉強して、先生になるためにがんばりたいと考えています。

これらのことから、私は、八王子市を、住みよい町に、そして、みんながやさしくて、地球にもやさしく、人々が安心してくらせる町にしていきたいです。そのために、私は、先生になるよう勉強を積み重ねます。地球にも人々にもやさしくできるようになりたいと思っています。先生になったら、子供達にも、人々や自然、地球にも、やさしい人になってもらえるように教えたいです。八王子市は、住みよいという人が増えても、自然は残っているようにしてほしいです。私は、八王子のことが大好きです。

オリジナル賞

今あるよさを大切に

私が思う２０年後の八王子

楢原小学校　６年　　下地　朱胡

「２０年後の八王子」私はその言葉を聞いてそのころにはもう３０才だなと思いました。まだ、この豊かな自然は残っているかな？　八王子祭りはどうなっているのかな？　と、ずっと考えました。

昨年、八王子祭りに行った時、ペットボトルを投げ捨てる人を見ました。八王子の自然がこわれないか心配し、なんで八王子を大切にしないのか、とても不思議に思いました。

でもその後に、小銭を落とした人を、周りの人が笑顔で助けてあげていたり、泣いている赤ちゃんを大人の女の人達が笑わせたりしているのを見て、とても安心しました。八王子には、やっぱり良い人がいっぱいいるんだなと思いました。

私は今、私にでも出来る事、例えばポイ捨てをしない、人を大切にする、思いやりの心をもつ、私はいつもその3つを守り、八王子を愛する、そんな素晴らしい人になりたいです。

特に、私が今、守りたいのは、八王子の自然です。私は一本一本の草や木や花にも命があるという事を常に心に留めておき、自然を愛する、子供に見習われるような、とても優しい人になりたいです。

そのような大人になるために、地域の清掃活動に協力したり、自らゴミを拾ったりすることが大切だと思っているので、少しずつですが、たくさん協力していこうと思っています。小さな一つ一つの行動ですが、それが私達の生きていく八王子になっていくことを信じて、２０年後、３０年後、未来の子供のために、もっともっと八王子の力になれるようにがんばります。

これからの私の２０年後の八王子を守る目標は公園や、色々な人が使う公共の場をきれいに正しく使って、２０年後、みなさんが気持ち良く使うことが出来るように、がんばることです。

私には、八王子の一番好きな所が3つあります。1つ目は、私達が守ってきた八王子の自然を好む鳥です。八王子にはイワツバメやヒメアマツバメというツバメが多く見られます。とてもきれいだから、八王子の鳥が好きです。2つ目は、八王子に住んでいる人の仲の良さです。近くで行われる、グラウンドでのフェスを見に行ってみると、八王子のみんなが心を一つにして歌をうたっているので、八王子のチームワークというものを感じて、とても感動しました。こうして心を一つにして盛り上がっている八王子は、とても素晴らしいと思いました。3つ目は、八王子市民の優しさです。私が朝、とても暑いけど、友達を待っていると、お花にお水をあげているおばあさんたちが、うちわを貸してくれたり、私の体を心配してくれたり、色々お話を聞かせてくれたり、とても優しくしてくれるので心が温まります。

そして私の行っている楢原小学校も、優しい先生や友達がいっぱいいます。私はこの3つが好きなので、私は八王子を、自然がいっぱい、優しさもいっぱい、温かい場所八王子と言っています。これを、２０年後も、だれかがそう思ってくれるように、八王子を大切に、人を大切に、自然を大切にして八王子の未来への道をこわさないよう、一歩一歩確実に進んでいこうと思いました。

これから先、２０年たっても、「八王子に行きたいな」「住んでみたいな八王子」と言われたいので、これからは、一人一人が「自分はいいや」と思うことのないように、みんなで八王子のチームワークを強く、絶対にこわれることのないような市を守り続け、２０年たってもそのまた２０年先を、守りたい、というような人であふれるような市であることを願っています。

市制１００周年を迎えるということなので、今まで守ってきた、自然や歴史を、くずさず今までの１００年を次はもっと良い１００年に出来るように、がんばっていきたいと思います。そしてこれからの八王子の発展を期待して、この市はすごい、と言われるような市をつくっていこうと思います。

そして最後に、私が思う２０年後の八王子は、今と変わらず、これまでに作りあげてきた八王子を守る、とても素晴らしい市であることを願っています。そのために、今、自分に何が出来るか考え、それを自らやるということを大切にしていきます。日本中の人が良い市はどこかと聞かれたとき、一番に「八王子」と思いつくことが出来るような市にしていきます。

オリジナル賞

八王子一番のシェフに

ぼくが思う二十年後の八王子

下柚木小学校　４年　　萩　陸斗

ぼくは、二十年後の八王子がどうなっているのか楽しみです。ぼくは二十年後は、大人です。だから子どもの時とどうちがうか楽しみです。

ぼくが思う八王子のいいところは、自然が多いことと、家が多くて人がたくさん住んでいるところです。とくに自然が多いところがいいです。なぜなら木があれば虫がいる、虫がいれば鳥がいるようにどんどん生き物や植物が多くなると森や林の中は楽しいからです。下柚木小学校には、広い学校林があります。学校林があると学校の周りにも虫や木でいっぱいになって学校の子どもたちが虫をつかまえたりかんさつしたりして楽しく勉強することができます。

次に住んでいる人が多いことです。自然だけでもにぎやかだけどお店やビルなどの建てものがあると人が集まって、もっとにぎやかになります。お店があると便利になるからです。ぼくの家の近くの南大沢駅の周りには、イトーヨーカドー、アウトレット、コンビニなどのいろいろなお店があります。なので買い物をする時に、たくさんの品物の中から自分の買いたい物を選ぶことができます。

いいところがたくさんある八王子だけれどもっとよくなってほしいところもあります。それは、大きな公園を増やしてほしいことと、交通ルールを守らない人がいることです。

大きな公園をふやしてほしい理由は、サッカーやキャッチボールができない公園が多いからです。そしてボール遊びきん止というかんばんがある公園も多いので、ボール遊びができる大きな公園をたくさん作ってほしいです。公園でおもいっきり楽しく遊びたいです。

次に交通ルールを守らない人がいることです。ぼくは、歩きスマホや自転車にのりながらスマホをしている人をよく見かけます。歩きスマホや自転車に乗りながらやっていると、人にぶつかったり、自分もあぶなくなったりするからぜったいやってはいけないと思います。そして、子どもたちが安全に歩けるような町になってほしいです。

二十年後、ぼくは３０才です。そのころには、お父さんになっていると思います。子どもが生まれたら、安全にくらせて自然でいっぱいの八王子でたくさん遊ばせながら元気に育てたいです。そして木のぼりできるような子どもになってほしいです。

ぼくのしょう来のゆめはシェフです。八王子はたくさんの人が住んでいて遠くからもたくさんの人が来る町なので、八王子でレストランを開きたいです。そして八王子で一番のレストランのシェフになりたいです。八王子でとれた材料でおいしい料理を作ろうと思います。ぼくの作った料理を食べた人に八王子を好きになってほしいです。そして八王子を有名にしたいです。

二十年後、八王子がもっといい町になっているように、そして自分のゆめがかなうようにがんばります。

オリジナル賞

農業とらく農がさかんな八王子

農業とらく農がさかんな八王子

みなみ野君田小学校　６年　斎藤　瑞生

二十年後の八王子では、農業や産業が発展し、全国各地で八王子で作られた野菜や牛乳を食べたり飲んだりしているぐらい有名になっていてほしい。

しかし、今の現じょうはらく農や農業をやっている人はごくわずかしかいない。さらにやめてしまう人も多く、大がたのスーパーなどでは、八王子産とついている野菜や果物はほとんど見かけない。給食では地産地消に取り組んでいるため、地域の野菜を食べることが多いが、家庭内ではめったに食べることがない。こんな現じょうではいずれ、八王子で農業やらく農をしている人はいなくなるだろう。このような現じょうを打破するため、４つのアイデアを提案する。

1つ目は、子牛をひきとる事。八王子はちく産で有名な北海道とは姉妹都市なので、北海道から子牛をひきとり、高校や大学に子牛をあげ育てていくなか興味を持った人がらく農家になってみたいという思いをもち、たくさんやる人が増える。そして牛は死ぬまでに四から五回出産をして子をつくるため、たくさんの子牛をつくれる。そのため生まれた子牛をまたちがう高校や大学におくりこれをくり返すと、たくさんの学校にらく農が広まり産業が発展する。らく農を八王子でやりたいという人がいたら進んでうけ入れて土地は空き家などをとりこわして貸し出す。

２つ目は、おとしよりの人に農業をしてもらうという事。おとしよりの人には農作業をやった事のある人はいると思うから、どう育てればどのように実がつきしゅうかくできるのかわかるのではないだろうか。そして道具や機械、土地代は市が負担し、さらに毎年、働きに応じて会社員のようなボーナスと同じようなもので夏と冬に一回ずつ給付金をしはらう。農業は重労働だからおとしよりには無理なのではと思った人もご安心を。今は身近な物が自動化され農業も自動でできることが多い。例えば、自動田植え機のように田の大きさをしゅん時に仕分ける機械などもある。そのため、おとしよりも体をたくさん動かすことが少ない。さらに早起きができるので健康にも良い。

３つ目はブランド品をつくる事。ブランド品には、自分の町の良さを大きく消費者に伝えることができるという良さがある。そのためブランド品をつくることで八王子はこんな所だよとアピールができる。消費者の目にとまれば、八王子にくる人が多くなると思う。そのためもっと八王子がさかえて経済力を高めることができる。らく農でも、八王子だけの新しい牛の品種をつくれれば、新たな乳製品を作ることができる。

４つ目はらく農と農業を両立させる事。らく農が発展していけばたいひをもらい野菜の肥料となり、どんどんおいしく、大きく育っていき農業も発展できる。また逆に農業が発達すれば、牛達が食べるえさの種類や量が増え乳の出が良くなり、長生きするようになる。そのためらく農も発達する事ができる。両方とも両立させていけば有名になって、たくさんの物を売ることができ、さかんになっていく。たくさん売れれば親しまれやる人が増えていく。このループで新たな品種や種類を生みだすことができるのではないだろうか。

ぼくは、この八王子から徐々に減ってきている農家、らく農家を増やすことが八王子がもっとさかえる鍵の一つなのではないのかと考える。食べ物を通して八王子が世の中に広まっていってほしいと思う。また、自分でも、もっと八王子に農家、らく農家が増えるように、やり方を勉強してたくさんの人に教え、興味を持ってもらえるようにしたい。

オリジナル賞

自然と伝統を受け継いで

私が思う二十年後の八王子

鑓水小学校　6年　　竹内　真央

二十年後の自分を想像してみると、高校や大学を卒業していて大人になっているんだなぁと考えると、とても長い月日が経っているということを感じます。また、結婚して子どもが生まれていると思うと少しワクワクとした気持ちがわいてきました。二十年後、自分が八王子に住んでいるかどうかは予想もつかないけれどこの町の良い所を残して、これから自分にできること、大切にしたいことを考えてみました。

まず一番最初に頭に思いうかぶのは、とてもきれいな自然と昔から続いている伝統行事です。二十年という長い年月が経つと、とても住みやすい町になっているのではないでしょうか。高いビルやマンションが建ち並び、とても便利なしせつも増えていくと思います。しかし、建物が増えることによって豊かな自然が減少してしまいます。八王子市には世界的にも有名になった高尾山をはじめ、四季に分かれて、色とりどりの多くの花がさきます。また、高尾山の美しい自然を求め、外国からも多くの観光客が訪れます。自然は人間だけのものではなく、動物も生きていくために必要なものです。私たちにとって自然は大切なもので絶対に守らなければいけないものです。この豊かな自然を守るために今からできることは、一人一人が積極的にごみが落ちていたら拾う、可燃ごみ不燃ごみの分別をする、リサイクル活動に取り組むなどといった身近で小さなことから始めるべきだと思います。このようなことを続けることによって二十年後も、きれいな町づくりができ、八王子の豊かな自然を残せると思います。

昔から続いている伝統行事やお祭り、これらは私が生まれる前からずっとうけつがれてきた大切なものです。自分が毎年、浴衣を着て友達とワクワクしながらお祭りに行った気持ちが、大人になってもそのころにもどったかのように楽しめる。そういう感情は大人になって、人生を歩む上でもとても大切だと思います。このような心に残る楽しい行事は、親から子どもに伝え続けなければいけません。伝統を全てそのまま引きつぐのは難しいけれど、あたりまえのようにお祭りに参加できるのは受けついでくれた人のおかげだからです。お祭りに参加している時の喜びを自分の子どもに伝えて、伝統を守っていきたいです。これからは、積極的に町の行事に参加して今まで知らなかった八王子のことや文化を学び、自分にできることを気付いていければいいと思います。

八王子は、自然がきれいで昔から続いている伝統行事がたくさんあります。こんな素てきな町が二十年後も、今と変わらないぬくもりのある八王子であり、ずっとみんなが住みやすい環境であってほしいです。また、二十年後に向かって良いところを残し、伝統などはしっかりと守っていきたいです。そして、ボランティア活動の小さなことから積極的に参加しこの町をよりよくしていきたいです。自分が今からできることを意欲的にがんばろうと思います。

オリジナル賞

夢にむかって

夢にむかって

上柚木小学校　５年　　鳥羽　一花

私は、しょう来、二十年後どうなっているのだろうか。今、思っている「作家になりたい」という夢は、実現できているのだろうか。今、いるこの八王子市は、二十年後、どうなっているのだろうか。未来のことは、だれにも分からない。でも、しょう来どうしていたいのか、何になりたいのか、私は、考えてみることにしました。

私は、小学２、３年生の時には、小学校の先生になりたいと思っていました。４年生の二分の一成人式のしょう来の夢を発表する時も、その時にはまだ、小学校の先生になりたいと思っていました。小学校の先生になりたいという夢から、作家になりたいという夢に変わったのは、祖父のことがよくわかるようになってからでした。

私の祖父は作家で、まだ私が一才の時には、もう百さつも物語を書いていました。私は、それを聞いた時には、おどろきました。それに、今年は、三百さつも物語を書いていました。私は、本当にすごいなと思いました。私は、もともと本が大好きでした。そんな本を、祖父は三百さつも書いたと思ったら、本当にすごいなと思いました。私も本を書いてみたいと思ったのがきっかけでした。私は今、その夢を実現しようと思います。

まずは、学校で、勉強をしっかりやり、いままで以上にがんばって、家でもがんばって、本もたくさん読みます。いっぱい、いっぱいがんばって大人になったとき、一回やってできなければ十回、十回やってできなければ百回、百回やってできなければ千回やってみます。私が本当にやりたいと思ったことは、絶対にあきらめなければ、いつかきっとできる日がくるからです。

二十年後、私が本を書いているころ、八王子市は、どうなっているのだろうと考えました。もしかしたら、ロボットが、街を歩いているのかもしれない。それとも、空を飛べる新しい機械ができているのかもしれない。私は、八王子市が二十年後、緑がまだたくさんのこっていて、みんながみんな親切で、やさしくて、明るい八王子市になっていたらいいなと思いました。

そのために今、私ができることはなんだろう。明るい社会を作るために、明るく元気に「おはようございます」とあいさつをしたり、ポイ捨てをしないようにするなどが、私たちにはできることだと思います。一人一人がみんなルールやマナーを守れば、事けんもなくなるし、気持ちよくすごすこともできると思います。私たちができること、身近でできることから一歩一歩進んでいけば、きっと八王子市全体で実現できると思います。絶対にやろうと思ったことは、決して、あきらめないで下さい。みなさんのあきらめない心を大切にしていきましょう。私も、自分が本当にやりたいと思ったことは、あきらめないようにしたいです。

優秀賞

子どもの命を助ける仕事について、八王子を明るい町にしたい。

みなみ野君田小学校　4年　　小林　千恵

私は題名に書いたように、将来の仕事は子どもの命を助ける仕事に就きたいと思っています。その仕事に就いて、学校の事で苦しんでいる子どもたちを絶対に助けたい。命と書いてちょっとおおげさのようだが、学校のことで悩んだり苦しんでいる子どもにとっては命に関わる問題と同じだと思うからです。だから、命という言葉を使いました。

普通に学校に行ける子どもたちには、なかなか理解できないと思いますが、悩み・苦しんでいるその子どもたちは、けっして学校をさぼっているわけではないのです。毎日がとても苦しいと思います。また、そのことは、いつも頭から離れないと思います。自分でもどうしたら良いか分からないんだと思います。だからその子どもたちのことは理解してあげないといけないと思います。

私は小学1年生からうまく学校に行けません。頑張っているが上手に出来ません。毎日朝になると苦しい気持ちになります。クラスの友だちで、私のことを思ってくれる優しい女子がいます。あるとき「どうして学校に来られないの」と聞かれました。私は、その理由を上手に答えられませんでした。自分でも「何が」「どうしたら良いか」分からないのです。

どうにかして学校に行けるよう、３年ほど前から八王子の子ども家庭支援センターへ通っています。担当してくれる人は広瀬さんという若い女の人です。とてもやさしい人で大好きです。どんな小さな事でも一生懸命に私の話を聞いてくれます。だから私も学校のことや学校での出来事など何でも話します。

広瀬さんとの出会いが私を助けてくれました。月二回ほどですが、センターでは、遊びを通して悩みの解決をいろいろな方向から、私と一緒になって苦しみ・考えてくれます。けっして結果を急がず、一歩一歩ですが私といっしょに歩いてくれます。心の温かさに、幸せな気持ちになります。そのおかげで少しずつですが、登校に対して勇気が出てきました。また、広瀬さんにあこがれるのは、やさしいだけではありません。行動する力強さを持っているからです。センターの中だけでなく、直接学校に行ってくれます。担任の先生にあってどうしたら学校に行けるかなど、話し合ってくれます。

自分も同じような苦しみをしてきました。だからこそ、学校のことで悩み・苦しんでいる子どもたちを助けられると思います。それに広瀬さんというお手本となるすばらしい人が私の隣にいます。将来、八王子から学校に行けない子どもたちがゼロになるような明るい町にするため、広瀬さんと一緒に子どもたちのために働きたいと思います。

優秀賞

いつまでも残っていてほしい自然

恩方第二小学校　５年　　田邉　明花

私は、二十年後の八王子が、どのようになっているか、すぐには想像がつきません。

今の八王子は、建物がたくさん建っているところも、自然が豊かなところもあります。

私が産まれてからの十年間でも、八王子は少しずつ変わったと思います。近所にあった小川には、ほたるがいてとてもきれいだったのに、小川をうめて、家が建ってしまったり、たくさんあったくり林が切られてしまったり、くわの木畑もなくなってしまったり、自然が少なくなってしまいました。そこに生きていた、生き物達はどうなってしまったのでしょうか。私は、花畑や緑、野原の草花が大好きです。二十年後、もっと建物ばかりになっていたらと思うと、とてもとても悲しいです。

大人になっても、自然が残っていてほしいです。季節で色々と風景が変わる、八王子の自然。春は色とりどりの花でいっぱい、そして、新緑が豊かな山々、夏は川がキラキラと光り、さわやかな風や真っ青な空、秋の山、紅葉で色づき、いちょうがすごいです。冬は真っ白な雪が木をすっぽりおおい、冬の花みたい、どの季節もたくさんのみりょくがあります。八王子の自然は大切な宝物だと思います。そして、四季を通して、おいしい野菜が豊ふです。学校へ行く時に、農家さんが出している野菜売場をよく見かけます。

八王子の豊かな緑がずっと続いてほしいので、それをこわすような、道路工事や建物の建設は、なるべくやめてほしいです。それより、自然を生かした広い公園、子ども、大人、お年よりがすごせる場所、私が大人になった時、ほっとできる場所が今よりふえてほしいです。

高尾山や陣馬山には、たくさんの登山者がいますが、ゴミのマナーをきちんと守ってほしいです。

私達が自然を残すためにできることは、自分がゴミを捨てないこと、よびかけをすること、小さい事でも続けていくことが大切だとおもいます。

便利になって車や機械などがふえ、空気がよごれるより、緑を大切にして、心がおだやかになるほうが、ずっと良いと思います。

東京でも、緑が多く、ふつうに自然を感じることができる、八王子に住んでいることは、幸せだと思います。二十年後も、幸せを感じられる街であってほしいです。

優秀賞

２０年後の八王子

宮上小学校　４年　　福田　千漣

２０年後、私は３０才になっています。私は結こんして子供を育てているかもしれません。八王子は東京にしては、高尾山などの自然がゆたかな市だと思います。２０年後も八王子が子供にとっても、お年よりや障害のある人にとっても自然がいっぱいで安全な、みんなが笑顔でくらせる街だといいなと思います。

私の家には、おじいちゃん、おばあちゃん、お兄ちゃんがいます。お兄ちゃんは、重い障害があって、言葉が話せません。自分では、食べたり、着がえたり、読んだり書いたりすることもできません。でも、いつもニコニコしていてかわいいみんなの人気者です。

私のしょう来のゆめは、デザイナーになることです。デザイナーには、

・街や公園とか、遊園地をデザインする人
・電車やバス、車などをデザインする人
・ビルや家をデザインする人
・電気せい品、家具や道具をデザインする人
・おもちゃや文ぼう具をデザインする人

など色々あると、聞いたことがあります。私は、どういうデザイナーになろうか迷っています。でも今は、ファッションデザイナーがいいかなと思っています。ファッションデザイナーは服をデサインする人ですが、私はお年よりや障害のある人の役に立つ、着やすくて便利な、そしておしゃれな服をデザインしてみたいです。例えば、健康にくらせるように歩数計つきの服とか、歩くのを助けてくれる機能がついている服、その日の天気にあった服が自動的にとびだしてくるしかけの服、お兄ちゃんのような、お話ができない人には、その服を着ていると、その人が思っていることを服についているミニロボットが代わって他の人に伝えてくれる服。そうすれば、タクシーに乗ることも、買い物もできるかもしれないと思いました。私は、障害があるお兄ちゃんのためにも、いろいろ楽しいゆめのようなデザインを考えてみたいと思います。

八王子は歴史が古いので伝統的なものが大事にされていると思います。また大学もたくさんあるので、これからゆめのような新しい研究が進むと思います。

私は、しょう来デザイナーになったら二十年後の八王子を今の八王子より、もっとすてきな町にしたいと思いました。

優秀賞

二十年後の八王子

鹿島小学校　4年　　両角　玲香

私が思う二十年後の八王子は、高尾山が世界中の人に知られていて、世界中の人だれもが高尾山を愛する山になってほしいと思います。その夢が、かなうために私ができることはポスター作りに参加することや、高尾山に登ったことのない友達に、高尾山のよい所、自然ゆたかな所などを教えてあげることだと思います。そして、その友達と一しょに高尾山へ行き、その友達が、またちがう友達に教えていって、どんどん世界に広めていくことも大切だと思いました。

高尾山は、八王子の西の方にある、おだやかな山で、ビルや高い建物に囲まれているのですが、人々が高尾山のまわりの森や自然を守ってきました。

私が高尾山を登っていいなぁと思った所は、建てものがたくさんある中で自然を守りつづけられた高尾山に、植物や虫、動物、人間が集まり、多様なところです。

また、高尾山に登っている途中におなかがすいてしまったり、のどがかわいてしまったりしても、登っていると中に、おだんごやさんや、自動販売機があるので、みんなこまらないで登れる所が、他の山ではあまり見られない、良いところだと思います。

高尾山には、もう１つ良い所があります。それは、高尾山５９９ミュージアムです。理由は足の不自由な方や、こしの弱いおとしよりの方でも、高尾山がたのしめるからです。高尾山ミュージアムは、かいてきで、高尾山の事が書いてある本や、自然のすばらしさがわかるえい画、高尾山にいる虫がわかる、ひょうほんなどがあるので、だれとでも、一しょに行けて、うれしいなぁと思いました。

わたしの願いを実現させるための方法は、夏休みをかけてポスターを作り、見ていただいた方々に

「高尾山は美しい所なんだなぁ」

とか、

「早く高尾山に登ってみたい」

とか、

「高尾山に登るとこんないい事があるのねぇ」と思っていただき、高尾山に登ってみたいと思ってもらえるといいなぁと思ってポスター作りに参加しました。

たくさん友達にいい所を教えて、どんどん広めていくだけでなく、実さいに、友達をさそい、いっしょに行く事も世界に広めていくのに大切だと思いました。

わたしの願いが実現されると、世界中で八王子の高尾山が有名になり、八王子市も高尾山も愛されると思いました。わたしはもっと高尾山が世界中の人に知られていて、世界中の人だれもが高尾山を愛する山になってほしいと考えました。

だから高尾山の事をもっと調べて、いろんな事をたくさん知って、みんなが高尾山に、注目できるよう、案内をできるようになりたいと、あらためて目標ができました。

これからも、高尾山の自然を守りつづけていきたいです。

優秀賞

地域の人とのかかわり

秋葉台小学校　４年　　稲見　栞凜

今年の夏は、おじいちゃんとおばあちゃんの家の近くのお祭りに行きました。いろいろな出店が出ていたり、ぼんおどりをおどったりして楽しかったです。数年前から、少し遠い場所のお祭りに行っています。前、行っていた場所は近くの神社で行われていましたが、地域の方々が高齢になり、引きついでくださる若い方が少なくなってしまったので、お祭りがなくなってしまいました。とてもざんねんです。どんどんそういったことがふえていくといろいろな地域の活動がへっていく可能性があると思います。そのためには、わたしは地域の人とのかかわりが大切だと思いました。あいさつや、いろいろな行事などで仲がよくなることもあります。地域での活動を広げていくとかかわりが大きくなり良いと思います。

わたしの住んでいる所では、バーベキュー大会やクリーンデーといってみんなで町をきれいにする日があります。また夏には、近くの神社でお祭りがあり、こういった活動は、数年前までないのもありました。そういう活動がふえたのは、地域の人とのかかわりが出来た、または大きくなったからなのではないかとわたしは考えました。それがもっと、大きくなるといろいろな行事や活動がふえるのではないでしょうか。

おじいちゃんとおばあちゃんの家の地域もたくさんの人たちとのかかわりを大切にすれば未来の二十年後も、いろいろな活動、行事がつづいているかもしれません。

わたしは３０才です。子育てをしているかもしれません。もし、子供ができたら人とのかかわりを一つ一つ大切にするとよいということを教えたいです。わたしもそのことをわすれずにしたいです。

これからも、わたしは地域の活動、行事に進んで参加し、じまんの出来る、すばらしい八王子という町にしていきたいです。

優秀賞

「私が思う二十年後の八王子」

城山小学校　５年　　工藤　詩織

二十年後の私は３０才になっています。
もしかしたら結婚して、子供がいるかもしれません。

私が思う二十年後の八王子について少し考えてみました。

まず、「お年寄りがたくさん増え、子供が少なくなり国の税金等が大変になるかもね」と、母がよく話してくれます。

なので、どうすればいいか自分で考えてはみても、正直良い考えがうかびません。

しかし、母の仕事は介護職です。お年寄りを毎日たくさん見ています。今の時点で、介護をする人が足りていないそうです。私達の時代には、お年寄りを介護する人がさらに足りないのではと、私は思います。

そして、小さな子ども達や障害者のお世話をするかんきょうは整っているのかも心配です。私達はこれからどうしたらいいでしょうか。

まずは、人とのつながりをとる事が良いと思います。おとなりにだれが住んでいるのかも知らないのでは何も出来ません。何かあれば声をかけ合える様にしておく事も必要だと思います。そのためには、自分自身が出来る様に努力していきたいと、考えています。人に対して思いやりの心を日々もっていきたいです。

八王子は昔、織物の町と聞いています。その歴史が二十年後にどのくらい残るでしょうか。私の名前にも「織」という字を両親が入れてくれています。たくさんの意味を込めてつけてくれたそうです。

八王子で産まれ育ち、何らかの形でずっと、「八王子」を活気のある、あたたかい町、そして、昔からある物、これから新しく出てくる事等を、自分なりに大切に、残していきたいと思います。

「八王子の強み」は比較的、災害の被害が少ない地域と聞いています。将来たくさんの人が、八王子に住んでくれれば二十年後の八王子は活気にあふれるかもしれません。

今は、大学や、高齢者福祉施設が多い様なので、街づくりも頑張れるといいなと思います。八王子はまだまだ自然がいっぱいあります。高尾山等、外国の人が今はたくさん来ます。調べてみたら、イベントも色々行っていることを知りました。一つ一つを消さないためにも、私達が大人になっても、大切に残していきたいです。

今年は市制百周年。二十年後、三十年後、いやっ、二百年後と、私達の子供、孫とずっと、平和で幸せな町であってほしいと思います。母が八王子は、

「太陽の町八王子なんだよ」

と、笑って話してくれました。まさに、

「葉っぱきらきら～き～らきら」

ですね。

優秀賞

私が思う二十年後の八王子

元木小学校　６年　　渡邉　樹莉翔

私は八王子市が好きです。二十年後のこの町はさらにすてきな町になっていると思います。私は二十年後の八王子に向けて市民に知ってほしい事、大切にしてほしい事、私達に出来る事が3つあります。

1つ目に知ってほしい事。私は「八王子の野口英世、ドクター肥沼信次」という人物を市民に知ってほしいのです。私は初めてこの様な人物を知った時、本当に素晴らしい方だと思いました。今はまだ八王子市にこの様な人物を知っている方は多いとはいえません。だから肥沼信次を知ってもらうため、「ドクター肥沼の偉業を後世に伝える会」というものがあります。私はその様な会がある事を本当に素晴らしいと思っています。私も肥沼信次をたくさんの方々に知ってもらうため、家族や、友達に本などで教えたい、と思いました。

2つ目は大切にしてほしい事です。大切にしてほしい事は2つあります。 1つ目は優しさや思いやりです。困っている人がいたら積極的に助けてあげる…。そうすれば仲良くなれるし、いじめも防げると思います。皆が仲良くなっていじめの無い温かく優しい町になれば良いな、と私は思いました。

2つ目は八王子の文化や自然を大切にする事です。例えば文化は八王子祭り。八王子祭りは八王子市内でもとても有名で最大のお祭りです。毎年、たくさんの人で賑わいます。「千貫みこし」や「盆踊り」も迫力があってどれもとても楽しいです。盆踊りはギネス世界記録に挑戦し、参加者数2，130人で見事、ギネス世界記録に認定されました。こんなに素晴らしい記録を残し、たくさんの人で賑わう祭りを大切にし、この伝統をこれからも続けて行ってほしいな、と思いました。

次は自然を大切にする事です。八王子には有名とされる植物や作物がたくさんありますがどれも大切にしなければなりません。八王子の緑を守るために私達も気を付けなければなりません。作物も人が大切に育てた大切な食べ物なので残さず食べる様に心がけたいです。

そのために今私達に出来る事があります。それはクリーン活動です。一人でも多くの人が活動を行なえばこの町がきれいになって行くと、私は思います。もう一つはあいさつをする事です。学校のボランティアさんや地域の方々にあいさつをすればお互いに気分も良くなるからです。

最後に私は二十年後の八王子がもっといじめやケンカの無い、困っている人を助けて温く仲良い町。緑や自然が豊かな町になっていれば良いな、と思いました。これからももっとすてきな町になるため、私も出来る事からたくさんやろうと思いました。これからも頑張りたいです。

優秀賞

私が思う二十年後の八王子

由井第三小学校　4年　　宮崎　晴香

私のゆめは、花屋さんになって活やくすることです。

学校のお仕事見学をしたときに、お花屋さんに行きました。その時、特別にフラワーアレンジメントを作らせてもらいました。初めて作ってとても楽しかったです。そこから、私も花屋さんになりたいと思いました。

八王子は、緑ゆたかですみごこちがいいところです。私の家の近くの川ぞいには、秋になると、ピンクや白のコスモスがたくさんさきます。また、公園の花だんや道路わきの木のお手入れがよくされています。町を美しく、心ゆたかにしてくれる緑や季節の花をあちこちで見かけます。

そんな八王子なので私も花屋さんになったら、八王子の町を花で明るくみんなの心を元気にさせるような町作りに参加していきたいと思います。

例えば、「いちょう祭り」です。

「いちょう祭り」は「いちょうの葉」の色づきをながめて楽しむためのお祭りです。いちょうで真っ黄色になった通りを歩くのは、とても気持ちがいいです。通りかかった人たちもうれしそうに見上げていました。自然は人の気持ちをやさしくしてくれると思いました。

毎年たくさんの人が見に来るこのお祭りなので、しょう来、私も参加してもり上げていきたいと思います。自分の花屋から、お店を出して、フラワーアレンジメント体験や、おし花体験を開きたいと思います。また、お花にまつわる商品や、植物の育て方を説明したりしたいと思います。いちょう祭りの会場のところを花畑にして、みんなに見てもらい、帰りに花をつみ取っていくイベントもできたらいいな、と思いました。

また、いちょう祭りが終わって、いちょうの葉っぱが落ちたらその葉っぱで、しおりや葉のちぎり絵を作るのもいいと思っています。

お花の力はすごいな、と思うことがあります。家のげん関にお花がきれいにさいていると、どろぼうが入ろうとするのをやめる、という話を聞いたことがあります。それは、お花が人の心をやさしくしてくれるからだとテレビで説明していました。お花には、そんな役わりもあるんだな、と思います。

でも、私はあまり植物やお花のことをくわしく知りません。だから二十年後の自分は、植物のことをもっと勉強して八王子の緑や自然に役に立てるようになりたいと思います。植物や、お花で八王子の町が、今よりもたくさんすてきになったらいいなと思います。

優秀賞

大切な八王子

長沼小学校　５年　　尾﨑　琴梨

わたしは、八王子の自然豊かな所が、好きです。特に、高尾山は八王子の大切な山です。高尾山は、自然がたくさんあって、虫や鳥の鳴き声、風の音、そして葉っぱのゆれるざわざわとした音。わたしは、自然が歌ったり、おどったりして楽しい音楽に聞こえました。３、４年の遠足で高尾山に行った時は、グループのみんなと協力して登りました。そして、頂上についた時、わたしはすごい景色を、見ました。それは、下には家がならんでいて、上には緑のきれいな山がたくさんありました。後ろには、みんなの楽しそうな声。前には、生き物たちの鳴き声が聞こえました。この時、わたしは、これが八王子の良い所かなと感じました。そして、これはわたしにとって、宝物だと思います。その後、協力したグループの子たちといっしょにおべんとうを食べました。お母さんが、大切に作ってくれたおべんとうをみんなで楽しく食べました。わたしは緑の山の方に、

「ありがとう！」

と、大きな声でさけびました。グループのみんなはびっくりしてたけど、ちょっとしたらみんなで大笑いしました。帰る電車では、わたしはすごくつかれていました。でも、友達と、今日のことをいっぱい話しました。そして、わたしは友達と協力し合うのは、すごく大切なことなんだなと思いました。

わたしは、しょう来八王子は、あまり、変わってほしくないなと思います。なぜなら、わたしは、この八王子の自然に大切なことを教えてもらったからです。そして、高尾山の他にも、浅川や長沼公園など、自然を大切にしたい所はたくさんあります。そのために、八王子の人達で助け合いながら、今の豊かな八王子を守っていきたいです。

自分のしょう来の夢はかんごしです。かんごしの中でも助産士になりたいと思っています。産むお母さんも、生まれる赤ちゃんも、安心して産まれるようにしたいです。そして、助産士として、八王子の中で働きたいです。わたしは、八王子の中でこまっている人を、一人でも多く助けたいです。

わたしにとって、この八王子の宝物を、見守りながら助産士をやりたいと思っています。そして、八王子のみんなで、八王子の良い所を残していきたいです。

八王子市長賞

僕らの未来計画　～輝かそう八王子～

長房中学校　2年　　日暮　雅

今年、百周年を迎えた八王子。二十年後の百二十周年を迎える頃にはどう変わっているか、未来の八王子に聞きたいことがいくつもある。「市長は誰か」もしかしたら、ぼくのクラスメートかもしれない。「人口、面積は」もしかしたら、中核市から、政令指定都市になる程大きな市になっているかもしれない。「世界的な有名人はいるだろうか」もしかしたら、オリンピック金メダリストやノーベル賞受賞者がいるかもしれない。

色々と想像してみたが、僕は気が付いた。僕が聞きたいことは、変化するものばかりだ。だが、八王子には、二十年、三十年、いやもっと先の百年後にも変わらず受け継いで、その魅力が世界に広まって欲しい伝統や文化、歴史、自然などがたくさんあるということに。

八王子の歴史の一つに養蚕や織物産業の発展がある。昔は、桑都と呼ばれた程だ。僕は、小学三年生の時、学校の授業で、蚕を育て、糸を紡ぐ体験をした。この体験が、八王子の伝統や歴史に触れるきっかけになり、これらに親しむことに繋がった。もちろん写真を見たり、話を聞いたりするのも楽しいが、実際に見たり、触れたりすることが大切だと感じた。また、僕は毎年八王子まつりやいちょう祭りに行っている。毎回新しい発見があって楽しい。そんな祭りの良さを市の外から訪れた人々に紹介したいと思う。

しかし、自分が体験していないことを人に伝えるのは難しい。例えば、見ていても踊れない新八王子音頭「太陽おどり」や、耳にしたことはあるが見たことのない八王子の伝統人形劇である「車人形」などだ。機会があれば、触れてみたいと思い調べてみると、八王子市主催の文化イベントがあることを知った。一歩文化に近づくことができるので、父母や友人と是非参加してみたい。

また、八王子市民が八王子のことを知らないと、紹介できないことにも気が付いた。昨年、ギネス世界記録に認定された盆踊りのように伝統を生かした挑戦をして、多くの市民に関心をもってもらうと、市民が文化を知りたいと思うきっかけになると考えた。

では、八王子の良さや魅力、自分の体験をどのようにしたら、市外の人に伝えることができるだろうか。高尾山には、年間２６０万人もの人々が訪れ、日本一登山客の多い山として知られている。ミシュラン三つ星にも選ばれており、世界的にも有名だ。この山に市外から訪れた人にまず八王子のパンフレットを渡す。その中で興味をもってくれた人に市民ボランティアが八王子を説明、紹介して、関心を引くと良いと思う。僕もボランティアに参加し、パンフレット作りなどをしたい。説明を受けた人が「行きたい」と思ってくれれば大成功だ。その日中に他の名所に行くことはできなくても、「八王子」の名を覚えてもらえれば、次の機会に足を運んでくれるに違いない。

三年後の東京オリンピックも絶好の機会だ。オリンピックの閉会式の日は、八王子まつりの開催日と重なる。「せっかく日本に来たのだから祭りを見たい」と思う来日外国人がたくさんいるのではないだろうか。そのような人が八王子まつりを見に来てくれるかもしれない。そのために、英語で市内を案内できるガイドを市民で結成すると良いと思う。僕は幼い頃から英会話を学んできたので、是非それに参加して、八王子の良い所や魅力を色々伝えたい。

高尾山や八王子まつりに来てくれた人を通じて、二十年後には、「八王子」の名と、伝統や文化、歴史、自然など、昔から変わらず残る魅力が、僕たち市民の手で世界に広まり、八王子が輝いてほしい。

もし、二十年後の八王子に手紙を出せるなら、こう綴るだろう。

「前略

２０３７年の八王子様、そちらはどのような様子ですか。二十年前のように伝統や文化、歴史、自然が受け継がれていますか。また、多くの人でにぎわっていますか。百周年の時の「百年の彩りを次の１００年の輝きへ」とのスローガンがありましたが、次の輝きが見え始めている頃でしょうか。どのような輝きかを実際に自分の目で確められることを大いに楽しみにしています。その時、八王子に住んでいないかもしれませんが、たとえ、他の地に居たとしても、父母や友人が八王子に住んでいると思うので、祭りなどを必ず見に行きます。

１２０歳の輝いている八王子に会えるのが、今からとても楽しみです。八王子市がもっと発展していることを心から期待しています。

草々

２０１７年　夏」

教育長賞

語り継ぐ「八王子空襲の記憶」

第一中学校　2年　　中山　太洋

今から72年前の夏。八王子は焼け野原となり、多くの尊い命が失われた。「八王子空襲」である。かつて、アメリカ軍は、東京大空襲といった大都市に対する空襲を行う一方、地方の中小都市にも攻撃目標を移し、焼夷弾による爆撃を始めた。そして昭和20年8月2日の未明、八王子の上空にはB 29が編隊を組んで襲来し、爆撃機169機による大爆撃をあびせ、市街地は火の海となった。この爆撃で八王子市の市街地の約80パーセントが焼失した。また、約2，450人以上の人が亡くなったり、怪我をしたりした。戦時中だけでなく、戦後も人々は貧困な暮らしを続け、食べ物はなく、バッタやカエルなどを生きるために我慢をして食べた。

そんな戦争の中でも、奇跡的に生き延びた人たちがいる。そして、生き延びた人たちは今、戦争体験者として自らの八王子空襲の戦争体験を、戦争を体験していない世代の人たちに語り継いでいる。私は、八王子には、そういった戦争の事実を語り継ぐ人がいることが良いところだと思う。なぜなら、人が平気で死んでいくという悲惨な事実を目の当たりにしたり、自分の家族や大切な仲間たちを失い、苦しい思いをしたりしたという、教科書に載っていないことを知ることができたからだ。

戦後72年ともなると、戦争体験を語れる人は高齢化し、限られてくる。その残り少ない体験者として、村野圭市さんと串田玲子さんの話が載った記事を見た。村野さんは、

「昭和20年8月1日、空襲の噂を聞き避難しましたが、安全と聞いたので、自宅に戻りました。しかし、翌日午前0時頃、突然の焼夷弾の轟音で、弟を背負い必死で逃げました。あの日のことは忘れられません。未来を担う子供たちに伝えたいです」

と話したそうだ。串田さんは、

「8月1日の朝、米軍から空襲予告のビラが届いたので避難しました。深夜、突然の爆音とサイレンで一人で逃げ回りました。私は、今ある当たり前の生活が当たり前ではなかったことを子供たちに伝えたいです」

と話したそうだ。この二人の話で共通していたのは、「子供たちに伝えたい」だった。では、なぜ「子供たち」なのだろうか。私は、子供たちに八王子空襲の事実を知ってもらうことで、戦争体験者の方が亡くなった後も世代を超えて戦争の記憶を語り継いでほしいと、二人が願っているからだと思う。

2年前私は、「八王子に戦跡を探す旅」というバスツアーに参加した。そこで出会ったのは、八王子空襲を長年研究している齊藤勉さんだ。八王子市内に残る戦争の跡を講師の齊藤勉さんが説明しながらめぐるツアーであった。まず最初に訪れたのは、甲州街道のイチョウ並木に残る戦災樹木。八王子空襲から生き延びた樹木で、深く焼け傷んだ跡がある。次に、相即寺のランドセル地蔵。P 51 戦闘機の銃弾によって、疎開をしていた神尾明治君が死亡した。現地を訪れた明治君の母親は相即寺の150体の地蔵がつまった地蔵堂の中で顔が一番似ていたという一体の地蔵に明治君のランドセルを背負わせた。それがランドセル地蔵だ。次は、犬目町の爆弾抗。250キログラム爆弾の投下後できた、クレーター状の大きな穴だ。そして、美山町の乾晨寺。黒く焦げ、焼け残った山門を見た。それから、裏高尾町の湯の花トンネル。P 51 戦闘機複数機が満員状態の列車に対して執拗な機銃掃射を加え多数の死傷者が発生したという。当時、列車に乗っていた五歳の子は、顔半分がとばされ指3本を失い、亡くなってしまった、と説明を聞いた。気分が悪くなるほど、衝撃を受けた。そのあと、浅川地下壕の入り口を見に行った。航空機エンジン製造の地下工場として使われた地下壕だそうだ。最後に、高尾駅ホームに残る銃弾跡を見た。P 51 戦闘機が六機侵入し、200発以上の銃弾を撃ったという。このツアーに参加して、実際に戦跡を訪れ話を聞き自分の頭で当時の様子を想像したとき、ぎゅっと胸が苦しくなった。そして、このツアーに参加しなければ、普段通る大和田橋に残る銃弾跡に気付けなかったと思う。戦跡は、残っているだけでは駄目だ。誰かが語り継ぎ、伝えていかなければ。

私が思う二十年後の八王子。それは、八王子空襲の記憶を風化させず、次世代へ伝えていき、平和の尊さを忘れない八王子であること。そのために、このツアーのように過去を見つめる機会をつくり続けることが大切だ。

二十年後の八王子に、語り継げる人がどれだけいるだろうか。私は、戦争を知らない。けれど、戦跡をめぐり、現実を見て聞いて、改めて戦争の悲惨さと平和の尊さを知った。私にできることは、これから先、語り継ぎ伝えていく一人になることだと思う。戦後92年と言えるように。

八王子市青少年対策地区委員会連絡会長賞

私が思う二十年後の八王子

南大沢中学校　1年　　田辺　玲子

私たちが暮らす八王子の二十年後を考えるにあたり、まず、現在の八王子の状況を確認し、それをふまえて二十年後の状況を予測する。そのときに生じるであろう問題点を想定し、その解決策、およびそれに向けて、私がどのように関われるか、貢献できるかについて述べることとしたい。

まず人口面だが、平成２９年6月末現在、八王子市の人口は約５６万4千人となっている。多そうにも感じるが、年齢構成別に見てみると、多いのは２０代と４０代以降であり、逆に小中学生の人口は少ない。実際、私の通った小学校は全学年一クラスしかなかったし、中学校進学後も一学年二クラスとなっており、人口の少なさを身をもって感じた。

その他の面で私の暮らしと関わりが深いところとして、教育面ではＩＴの活用が始まっており、授業の一部をタブレット端末等で行う学校もある。実際に私も小学校で国語の授業をタブレット端末で行い、参観に来ていた父は目を丸くしていた。また、環境面では廃棄物削減（リデュース、リユース、リサイクル）に向けたボランティア活動として、クリーン作戦を行っているところもあり、私も毎回参加するようにしている。

では、これらは二十年後、どうなるだろうか。後半で述べた教育面では、ＩＴ技術がより高度化し、それらを活用した授業等がより普及するだろうし、環境面では、温暖化がこの先も進むと見込まれるため、環境配慮に向けた活動が更に加速するだろう。その意味あいで、基本的にはこれまでの流れの延長線上を進むものと考えられる。

ただし、前半で述べた人口については状況が異なる。私はこの先も八王子は高齢化が進み、人口は減るだろうと考えている。なぜなら現在の八王子の人口の多くを占めている２０代と４０代以降がそれぞれ４０代と６０代以降となり、人口の少ない小中学生の世代が２０代や３０代となるからである。その上、八王子市では平成２２年以降、死亡数が出生数を上回っており、少なくとも自然動態としては人口減少の傾向が今後も続くと考えられるからである。

このことから大きな問題点が二つある。一つ目の問題点は、労働人口の減少、不足である。これに関して、解決策は二つある。一つは労働人口を増やすことである。都心への一極集中の是正を行ったり、ＩＴの進歩によって在宅勤務を更に普及させたりすること等がそれにあたる。もう一つは、労働人口が少なくても困らないようにすることである。ＩＴやＡＩ、ロボット等を活用したりすることで労働人口の一部を代行させることができると考えられる。

二つ目の問題点は、高齢者への対応についてである。これを解決するには二つのことを行わなければならない。一つは、医療機関、老人福祉環境の整備である。例えば、病院や老人ホームを増やしたり、ヘルパーを増やしたりすることである。もう一つは、新しい検査や治療薬の開発等、医療の高度化を進めることである。

このように、労働人口の減少や高齢者への対応といった問題点は、技術を中心とした対策によって、二十年後に向けて解決可能となると考えられるが、八王子の目指している二十年後の世界はそれらだけで実現するものではない。住みやすさや暮らしやすさ、便利さ等も重要な要素だと思う。それらは技術だけで実現できるものではなく、地域に住むみんなの連携、協力、コミュニケーションがあってこそ、実現可能となるものである。それらをより強化し、充実させてゆくことも、忘れてはならない大切なことだと思う。

以上の考察により、二十年後の八王子をより良くするための課題が多くあることが分かった。そして、これらを解決するのは、未来を担う私たちの世代である。私は将来、科学者を目指しており、高齢者対応の老人介護ロボットの研究開発を通じて、二十年後の八王子が直面するであろう問題点や課題の解決に貢献したいと思っている。また、地域の連携、協力、コミュニケーションの観点でも関わりを強めながら、今後の二十年を生きていきたいと考えている。

八王子市立中学校長会長賞

人と人とのつながりが深い町

松木中学校　2年　　羽田　優月

私は、八王子の町が好きだ。八王子には、たくさんの魅力がある。例えば、豊かな自然が残っている所、人と人とのつながりが深い所など、数えきれないほどの魅力があると感じられる。では、二十年後の八王子はどうだろうか。

現代は、昔と比べて直接人と関わる機会が少なくなってきている。例えば、買い物一つとっても、少し前は八王子でも生産者直売のお店などで買い物をすることで、生産者に直接おすすめの野菜や食べ方を教えてもらったりとふれ合いが多かった。だが、今ではスーパーやコンビニの増加やインターネットの普及により、言葉を交わさなくても買い物が済ませられる時代になっている。非常に便利ではあるが、効率ばかりを重視した暮らしに変化していくことは、本当に良いことなのだろうか。このままでは、人と人とのつながりが深いという八王子の魅力が失われてしまうと思う。この魅力を失わないために、私たちに何ができるのだろう。

私は、昔ながらの慣習を守りつつ、人との関わりを大切にしていきたいと思う。私たちの住む地域には、ぽんぽこ祭りのような地域のお祭りから、八王子祭りのような大規模なものまで、古くからのお祭りが多くある。このような昔ながらの文化を、未来の八王子にも残したい。それは、地元の特色を知ることでもっと地元に興味をもつ人が増えると思うからだ。また、お祭りを開催することで文化を身近に感じられる上に、地域の人々との輪が広がることにもつながる。以前お祭りに遊びに行った際に、今まで関わったことのなかった地域の人と話をしたことがあった。普段は挨拶だけで会話を交わすことなどなかったが、お祭りに参加したことでつながりができたように感じ、とても嬉しかった。だから私は、これからもっと人との関わりを大切にしていきたい。

最近では、子どもが連れ去られる事件などを恐れて、近隣住民の間でもあいさつをしないと決めている人が増えているとニュースで耳にしたことがある。私はそれを聞いて、信じられない思いでいっぱいになった。もちろん、トラブルから身を守るには、今の時代を考えると仕方のないことかもしれない。だが、それではせっかく同じ地域に住んでいるのに、あまりにもさびしい気がする。むしろ、信頼関係を深めることでトラブルを避け、地域の輪を広げていくべきだと思う。そのために、まず挨拶は自分からすることを心がけたい。例えば、一見不愛想に見える人でも、こちらから挨拶をすることで緊張がほぐれ、笑顔で返してくれることもあるからだ。

また、地域の行事やボランティア活動に積極的に参加しようと思う。私は今まで、このような活動に参加したことがなかった。なぜなら、恥ずかしいという気持ちが先に立ってしまっていたからだ。けれども、地域の清掃活動に一度参加したとき、他の参加者とコミュニケーションをとりながらの活動は楽しく、達成感があった。そして、誰かと一緒に一つのことをやりとげることの素晴しさを実感した。このように、身近なことから始めれば、だんだんと地域の輪を広げていけるのだと思う。

これから先、私たちが想像できないような未来が広がり、今よりさらに便利になっているかもしれない。だが、どんなに環境が変わっても、地域や人とのつながりを決して忘れたくはない。私は、二十年後もその先も、八王子が人との関わりを大切にする温かい町であることを願っている。

オリジナル賞

過去も未来も感じられる観光のまちへ

私が思う２０年後の八王子

第五中学校　1年　　成瀬　大門

私が思う 20 年後の八王子は観光地として、今よりもっと多くの人が来てくれる町になっていると思います。

なぜこのように考えているかと言うと八王子をたくさんの人に知ってもらいたいからです。

私には一つアイデアがあります。それは、昭和４年（１９２９年）から、昭和１４年（１９３９年）の間走っていた路面電車を復活させることです。

先日、高尾山に行った時に、外国人を含めた多くの観光客の人達が来ていることを知りました。この観光客の人達に高尾山の自然だけでなく八王子の町の風景も見てほしいと思いました。例えば普段人があまり見ない八王子の名物などがいいと思っています。

そこで、昔路面電車が走っていたことを父におしえてもらい、復活すればもっとたくさんの人が八王子を利用してくれるのではないかと考えました。

昔走っていたルートを調べてみると、甲州街道を高尾山口駅まで走っていたそうです。

毎年 11 月になるといちょう祭りが開かれ、関所跡をめぐって通行手形に焼き印を押してもらうオリエンテーリングがありますが、路面電車の駅を各関所の近くに設置し、駅名を関所の名前にすれば、昔の甲州街道を感じることもできるのではないかと、思います。

また、甲州街道ぞいの商店街を昔の町並みに再現できたら、路面電車に乗ってタイムトリップしたような気分を味わえるのではないでしょうか。

八王子駅から高尾山口まで八王子の歴史を感じることができるような場所がある反面、八王子の南側には新しい町並みが広がっています。首都大学や、東京工科大学など近未来を想像できるような勉強の場所もあります。八王子にはたくさんの大学があるので、それぞれの大学と協力しあい、20 年後には八王子の南側には未来都市を作りあげるというのはどうでしょう。

もし実現すれば、八王子に行くだけで過去も未来も感じることができると思います。そうなれば、国内・国外からたくさんの人が、八王子に来てくれるようになるのではないでしょうか。

これらを実現するためには、私がまずやらなければならないことは勉強です。海外の人達に八王子を案内できるように、語学・コミュニケーション能力を高め八王子の地理や歴史を深く理解することも大事です。

この話を母にしたら、「観光地になると、今住んでいる人達が住みにくくなることもあるんじゃない?」と言われました。

そう言われて考えてみると、普段使っている道路が渋滞したり、観光客の人達が出すゴミの捨て場所などの問題が出てきます。これらの問題をより良い方法で解決するためにも、やはり多くの勉強が必要です。

私が思う 20 年後の八王子は、たくさんの人達がおとずれてくれる八王子、今住んでいる人達が住みやすい八王子、住み続けたい八王子になっていることです。

オリジナル賞

高齢者が輝く八王子

高齢者が輝く八王子

横山中学校　3年　　峯尾　了理

私は、二十年後の八王子は「高齢者が輝く社会」であったら良いと思う。なぜなら、今八王子も少子高齢化が進んでいる。八王子を支える若い世代はただでさえ少ない。それに加え、どんどん都心への一極集中が進み八王子には高齢者がとても多くなる。その多い高齢者が輝ける社会になれば、八王子自体が輝くと思ったからだ。

では、そんな社会の実現はどのようにしたら可能になるのか。まず、高齢者の活躍の場を広げることが挙げられると思う。

最近、高齢者の再雇用についてのニュースをよく耳にする。高齢者が定年を過ぎた後にも働くのは難しいそうだ。これを聞いて私は、「高齢者って働けるの」と、正直思ってしまった。若い人のようにキビキビ動いたり、力仕事・体力仕事をしたりするのは難しいと考えたからだ。しかし先日、この考えが変わった。

私は今年、地域の夏祭りのボランティアに参加した。そこで、玉こんにゃくという山形の郷土料理を売る仕事をした。ボランティアは私の他に三人いたが、屋台にいる人は他は全員お年寄り、高齢者の方だった。接客は私にとって初めてのことで、作業を教えてもらった。こんにゃくの仕込みは、６００本ほどをおばあちゃんの方々がやったそうで、串に刺さったこんにゃくを食べやすいように浅めに刺したり、味が染みるように鍋をこんにゃくでぎゅうぎゅうにしたり、と細かな所に気を配っていた。私は、食べる人を考えようとはしなかった。また味が染みる工夫も知らなかった。このボランティアを通して、私は気づいた。それは、確かに高齢者の方は若い人のように体をよく使う仕事はできない。しかし、若い人の何倍もの知恵を持ち、人を思う温かみを持っているのだ、と。

一緒に屋台をやった皆さんは、とても楽しそうでいきいきとしていた。それを見て私もまた、楽しく感じた。高齢者の方の持つ特徴を活かした仕事をすれば輝けるのだと思う。

また、高齢者の雇用について調べてみた。すると、「八王子市シルバー人材センター」という高齢者の就職の応援をしてくれる団体があることを知った。このような団体があることをもっとたくさんの人に知ってもらえば、活躍の場は広がると思う。

「高齢者が輝く八王子」になるために私は、若い人々がもっと高齢者とつながろうとすることも必要だと思う。

ボランティアの際、高齢者の皆さんは、
「若い子と一緒にいると、元気がでる」
「若い人からはパワーがもらえるよ」
とおっしゃっていた。逆に私も、普段あまり話さない高齢者の方と話していて楽しかった。だから、私たち若い世代が高齢者世代に歩みより、つながりを持とうとすれば、きっと八王子はもっと輝くと思う。

高齢者の活躍の場の拡大、高齢者と若い人との結びつき、この2つこそが、「高齢者が輝く八王子」の実現につながる手段だと思う。そしてまた、このような社会を実現すべきだと思う。私は、実現に向け、まずは高齢者の方々との交流を大切にしていきたい。

オリジナル賞

伝統あふれるまちへ

伝統あふれるまちへ

打越中学校　3年　　楠元　結乃

私が思う二十年後の八王子は、まち全体が活性化していて、人々の関わり合いが盛んに行われる、そんな八王子だ。

私は、「どうすればまちが活性化していて、人々の関わり合いが盛んに行われるか」を考えた時、小学校で八王子市の伝統工芸や文化について学んだことを思い出した。

中でも、車人形の劇を鑑賞したこと、絹織物のもととなる絹の糸をつくる蚕を育てたことは、はっきりと覚えている。また、八王子にこんなにも伝統的な文化があるとは知らず、とてもおどろいた記憶がある。

そこで私は、自分が思う二十年後の八王子に近づくために、伝統を広めていくことと、地域で行われる活動に参加することの2つを実行することが必要だと考える。

まず、伝統を広めていくことが必要だと思った理由は、八王子の車人形や絹織物はとても魅力的だが、幼い頃の私がそうだったように、知らない人が多いのではないかと考えたからだ。

もし、多くの人が八王子の伝統的な文化を知り、魅力を感じて、実際に八王子に訪れてくれたら、伝統文化の活性化だけでなく、観光客の買い物などによる、まちの商業の活性化にもなるのではないだろうか。

だが、これはあくまで理想である。

いくら魅力的であっても、本体である伝統工芸や文化の後継ぎが減っていき、おとろえてしまっているのが現状だ。

このような現状がある中で、私はまず「多くの人」ではなく「八王子の伝統について知っておかなくてはいけない人」に守っていくべき、八王子の伝統工芸や文化を伝えていこうと思う。今の私が八王子市民全員にそれを伝えることはできないが、友人をはじめ、自分の身の周りにいる人に伝えることはできる。

そして、私が大人になった時、八王子の伝統を守っていく。また、広めていく活動などがあったら、ぜひ参加してみたいと思う。

2つ目に必要であることとしてあげた、地域で行われる活動に参加することは、私が思う二十年後の八王子の「人々の関わり合いが盛んに行われる」ためにとても大切なことだと考える。

特に、清掃などの地域美化活動は、同じ作業を通して会話が生まれるため、コミュニケーションが盛んになると考えられる。

私はこれまであげた2つのことを実行することで、「人々の関わり合い」の中で、八王子市民が一体となり、「まちを活性化」していったり、伝統を広めたりし、皆が気持ちよく暮らせるまちづくりを進めていくことが、私が思う二十年後の八王子につながっていくのではないかと思う。

優秀賞

小さな親切

城山中学校　2年　　三浦　元

私は、二十年後、みんなが家族のように思うことができる八王子になってほしいと思う。道ですれちがう誰とでも、笑顔で言葉を交わすことができれば、明るく美しく誇ることのできる故郷になると思う。

その夢を実現させるために、これから私が大切にしていきたいと思うことが3つある。

1つ目は、たくさんの人たちに自らあいさつをすること。

私は、保育園を卒園して小学校に入学すると同時に引っ越しをしたため、入学したときは周りに友達がいなかった。そのことを担任の先生に相談し、毎朝登校したら必ず誰かに、「おはよう」とあいさつをすることにした。すると、一人だけ時々会話をする友達が出来た。それが嬉しかった私は、毎朝たくさんのクラスメイトにあいさつをするようになり、友達づくりが出来るようになった。

そのときの体験から、あいさつは人との繋がりをつくるかけ橋のようなものなのだと知った。あいさつを通じて、八王子の人々に繋がりが出来たら良いと思う。

2つ目は、公共の場ではお年寄りの方や小さな子をできるだけ優先してあげること。

以前、私が電車に乗ったとき、最初は人が少なかったので席にすわることができたが、だんだん乗車してくる人が増え、席は全てうまった。そのまましばらくすわっていると、私から少し離れたところにつえをついたお年寄りの女性が立っていた。その方は、各駅で電車が止まる度に、降車する人と乗車する人にぶつかっていた。そこで私は、少し勇気を出してその方に声をかけた。そして席をゆずると、「ありがとうね」と言われて、自然とお互い笑顔になった。

その日の夕方、また電車に乗って帰宅するとき、私は席にすわれたが、やはり少しずつ人が増えていった。あとから、４才くらいの男の子を連れた家族が乗車してきた。その男の子はつかれていたのか、床にすわりこんでしまった。距離も近いし、迷わず男の子のお母さんに声をかけ、男の子に席をゆずった。このときも、「ありがとう」と言われた。

私は、この「ありがとう」という言葉が本当に嬉しく、心が温まる。こういった、ちょっとした行動が相手にとってとてもありがたく、自分も嬉しくなるので、小さな親切はとても大切なことだと思う。

3つ目は、英語を勉強すること。

去年、私がアメリカに行ったとき、中学1年生でまだ英語がよくわからなかった。なんとか入国審査を終え、電車に乗ってホテルへ行こうとしたが、切符の買い方がわからなかった。近くの人に聞いてみたが、話すのがとても早く、全くわからなかった。ずっと困って立っていると、一人のアメリカ人が日本語で話しかけてきて、切符の買い方を教えてくれた。びっくりしたが、話を聞くと、その人が以前日本に来たときに、私と同じように切符の買い方を英語が話せる日本人に教えてもらい、同じことをして誰かを助けてあげたいから日本語を勉強したらしい。私は、その人の優しさと努力に助けられた。

私はその人のようになりたくて、少しずつ英語を勉強した。先日、アイスランドに行き、帰国したとき、入国審査で外国人が困っていたので、英語で通訳をしてあげた。自分が助けられたときを思いだし、自分が成長したことが嬉しかった。

一人ひとりが小さな親切や、勇気、努力をしようとする気持ちを持てば、八王子はとても暮らしやすい場所になると思う。席をゆずることは誰にでも出来ることなので、自分だけではなく周りの人たちにも広めていきたい。また、私は特に英語の勉強をがんばりたいと思う。八王子では、スポーツクライミングのワールドカップが行われるようになったこともあり、これからも英語を使う機会が増えていくと思う。そのとき、八王子の人が外国人を助けることができれば、世界中の人が八王子の良さをわかってくれると思う。

八王子を家族のようにするために、小さな親切を心に留めて、また、それを広めていくこともがんばっていきたいと思う。

優秀賞

私がつくる二十年後の八王子

別所中学校　3年　　井口　彩霞

私は、二十年後の八王子を「自然と人間が共存し合える環境」にしたいと思います。現在の八王子は都会の新宿などと比べてもはるかに自然が多いと思います。しかし私たちの住む八王子もまち開発が進み、自然が少しずつ減ってきている状況におかれています。もちろん、まち開発を否定するわけではありません。まち開発と共に、自然を増やすことが大切だと私は思うのです。

例えば私が小学生だった時のことです。私の家の近くでは、空気が澄んでいて綺麗な川が流れている場所があります。そこでは、毎年夏になるとホタルを見ることができます。近所の人しか知らない穴場スポットですが、毎年見物客が増えているように感じます。そのため、見物客が残してしまっているゴミなどを多く目にすることがあり、ホタルの住みやすい環境を壊してしまっています。私の父は、ホタルは水の綺麗な場所でないと生きていけないんだよ、と言っていました。なので私たちは毎年個人的に近くの住民の方々とゴミ拾いのボランティアに参加しています。この活動では、ホタルの住みやすい環境をつくり、来年もこの八王子でホタルが観られるようにする、ということを課題に行っています。他にも私の家では、なるべく庭にたくさんの植物を植えるようにしたり、自然を残していこうと活動を続けています。しかし今後、このような活動をし続けたとしても、まだまだ自然を残していくには足りないと私は思います。まち開発が進み、私たちの生活が便利になったぶん、自然を残すべきだと私は思います。それが、自然と人間が共存するということではないでしょうか。

私はこのようなことを実現するためには、まず人間の努力が必要だと思います。しかし、これは誰もが思っていることだと私は思います。実践する、ということが意外と難しいのです。私も、まずは自分から、とは思ってはいるものの、やはり私生活の便利さを取ってしまいます。だから私は3つの事を常に頭に入れるようにしています。

1つ目は、汚したら綺麗にする、ということです。部屋の片付けと似たような感じで、出したら片付ける、汚したら綺麗にするということが大切だと私は思います。

2つ目は、なるべく排気ガスを出さない、ということです。最近では、水をエネルギーとして動く車など世界的にも環境に優しい物を造ろうと努力されているそうです。今は改良が続けられているようで、早く日常的に使えるようになればいいなと私は思いました。

3つ目は、ゴミを増やさない、ということです。例えば買い物に行く時、ビニール袋を使わずエコバックを持って行ったり、ペットボトルをわざわざ買わないために水筒を買うなど、日常的にも意識をすることが大切です。

今私たちは、自分一人が行動をおこしてもみんながやらないと意味がない、と思いがちですよね。でも私は逆だと思います。自分がやれば、周りの人も変わると思うのです。あの人がやっているから私もやろう。そういう意識が大切なのです。今後も私は、このようなことをふまえて、よりよい環境づくりに取り組んでいきたいです。そして、自然と人間が共存できる世界を、私たちの世代で築き上げていきたいと思います。

優秀賞

二十年後の八王子

第一中学校　2年　　安達　大翔

ぼくは八王子生まれの八王子育ち。どこよりも八王子が大好きだ。八王子は素晴らしい。八王子は楽しい。まず八王子と言ったら、やはり東京都でありながら山や川など自然の豊かさが特徴ではないだろうか。小さい頃から昆虫採集や川遊びは身近に育ってきた。名所である高尾山にも何度も登った。一方で大型店舗の進出、大学病院、鉄道、高速道路と、生活の利便性も充実している。両方の調和がとれた、とても住みやすい所だ。

二十年後の八王子はどうなっているだろう。ぼくは３３歳。もしかしたら父親になっているかもしれないな。自分の子供と一緒にカブト虫を捕りに行ったりして、ぼくが子供の時にした経験を同じようにさせてあげたい。だから二十年後も変わらない自然豊かな八王子であって欲しい。そして八王子の素晴らしさを知って、ぼくと同じように八王子を大好きになって欲しい。ぼく達は次の世代にも、八王子のよい所を失くさず繋いでいく責任があると思う。八王子の魅力である自然を守り続けなければならない。

今年ぼくの家は車を買い替えた。すると「ＥＣＯ」という初めて見るボタンがついていた。これはアイドリングを自動でストップしてくれる機能だった。信号待ちなどの停車時に車のエンジンを停止させることで、燃料や排気ガスの消費を抑える効果がある。地球温暖化防止への取組みの１つだ。ぼくにも出来る環境対策を考えてみた。エアコンの設定温度を控えめにしたり、電気をマメに消すなど省エネを心がける。ゴミをきちんと分別して捨てる。エコラベル商品を選ぶ。マイバックを持つ…意外と今すぐ出来ることがたくさんあることに気づいた。どれも「無駄をしない」を意識すれば誰でも出来る。特別なことではないし、普段の生活の中に取り入れていけばよい感じだ。一見、自分一人がしたところで、どうなる問題でもないように思うけれど「塵も積もれば山となる」ひとり一人の努力が大切なのだ。ぼくはその一人になって八王子を守りたい。二十年後の未来の八王子のために出来ること、やらなければいけないこと。

梅祭り、若葉祭り、花祭り、端午祭り、新緑祭、環境フェスティバル、ホタルの夕べ、花火大会、七夕祭り、夏祭り、もみじ祭り、いちょう祭り…これら全て八王子の行事である。一年を通して、こんなに季節を感じることが出来る八王子はすごい。自然の多い八王子ならではだと思う。今年の９月には全国都市緑化はちおうじフェアが開催される。このフェアは、ひとり一人が緑の大切さを認識し緑を守り、愉しめる知識を深め、緑がもたらす快適で豊かな暮らしがある街づくりを目的とした花と緑の祭典。市民の多くが改めて八王子の自然の素晴らしさ、大切さを再認識し、八王子のことを考える機会になると思う。

ぼくが思い描く二十年後の八王子は、きれいな山や川があって、フェアじゃなくても町が緑や花に囲まれ自然があふれている。みんな八王子のことが大好きで、明るく笑顔があふれ「八王子っていいね」って言われる。ちょっと自慢の八王子になっているのがぼくの夢。今まで守ってきてくれた八王子を、ぼく達が引き継いで大事にしていけば、きっと叶う夢だと思う。みんなで守って残していきたい。二十年後もその先もずっとずっと、ぼくの大好きな八王子「みどりの環境調和都市」であり続けていて欲しい。

優秀賞

変えたくないもの

由井中学校　2年　　川越　啓斗

私は、「自分の故郷」の八王子はこのまま変わらないでいてほしいと願っています。

私は、八王子が大好きです。近くに高尾山もあり、緑が豊かで、春、夏、秋、冬の季節をはっきりと感じることができます。私は、旅行などに行って八王子に帰ってくると、「あぁ。帰ってきたなぁ」と思い、とってもほっとします。故郷は誰にとってもそういうものかもしれないけれど、私にとって八王子は、「とても大切なところ」です。

先日、この作文のテーマの「二十年後の八王子」について、家族と話をしました。私の母は、生まれも育ちも八王子です。やっぱり、

「八王子が好き」

と言っていました。八王子は、二十年前と比べても、良い意味であまり変わっていないそうです。

「でも、これからの二十年後は劇的に変化するんじゃないかな」

と両親が言っていました。私もそう思います。

学校の総合の時間でも、

「君達が就職する時には、ＡＩやロボットなどに取って代わられる時代になっているかもしれない。それに対応できるようにしていかないと」

と先生が言っていました。そういう時代の流れには乗らないといけないけれど、絶対に変わらないところをつくることも大切だと思います。それは、「緑豊かな八王子の自然や、人とのつながりを守る」ということです。

二十年後は、私も３３歳です。就職して結婚して、子供もいるかもしれません。できれば八王子に住んでいてほしいけれど、もしそうではなくても、八王子とつながっていたいと思います。私が子供の頃からずっと登ってきた高尾山には、将来自分の子供とも登ってみたいです。今、高尾山はとても人気があり、大きいショッピングモールもできたそうです。八王子には大きな道路も通ります。今まで以上に、人も車も多くなるかもしれないけれど、緑豊かな自然は絶対に変わってほしくないです。そのためにも、八王子についていつも関心を持っていたいと思います。

また、ボランティアとして、母校で卓球部の指導をさせてもらったりして、たくさんの子供達と関われたら、「すごく素敵だなぁ」とも思います。

私達は、「職場体験」を二学期にひかえています。そこで、一学期に「職業新聞」を書きました。私は、「看護師新聞」をかきました。男の看護師さんもたくさんいることが分かり、大変だけれど、とてもやりがいを持って皆が働いていることも分かりました。「看護師」は、私の将来の選択肢の1つになりました。まだ先のことははっきりとわからないけれど、もしも看護師になって、八王子の高齢者看護に関われたら、「いいなあ」とも思います。

今回、「私が思う二十年後の八王子」について、考える機会を与えてもらい、難しかったけれど、本当に良かったと思いました。これからも、自分の夢の実現に向けて、しっかりと進んでいこうと思います。

優秀賞

「今以上に良い町に」

南大沢中学校　1年　　田中　友菜

私が思う二十年後の八王子は、今と変わらぬ元気いっぱいで、自然あふれる八王子であってほしいと思います。なぜなら今の八王子は明るくて元気いっぱいな感じがするし、自然も多く残っている方だと思うからです。だから今あるこの自然をみんなで大切にしていくことが必要だと思います。今は自然がどんどん小さくなってしまって、地球の環境がどんどん悪くなってきています。なので私は、八王子のように自然が多くある町は貴重だと思うし、これはこのままも守っていく必要があると思います。

では、自然を守るためには私達は何をしたら良いのでしょうか？　私はそれぞれの地域で、木や花の手入れをする活動をつくって、月に一回程度、木や花の手入れをしたら良いと思います。なぜなら、いくら自然が多くても、手入れをしなかったら、ぼうぼうに生えてきたなくなってしまうだけだし、このような活動をつくれば、みんなに自然の大切さを分かってもらえると思ったからです。

そして私は、明るく元気な町のままであるために、今ある伝統はこれからも残していってほしいと思いました。例えば、毎年行われているお祭りや八王子の伝統文化の「八王子車人形」など、八王子にはたくさんの良い文化があります。この文化は二十年後もそれ以降も、ずっとずっと大切に残していってほしいなと思います。そのために私達は、地域で行われている活動に積極的に参加し、色々な方と係わっていったら良いと思います。そして、八王子の歴史や伝統文化を、八王子の先輩方から学び、守っていければ良いと思います。

最後に、八王子をもっとすてきな町にするために、八王子の良い所をもっとたくさん見つけ出したり、新しい文化をつくっていけたら、八王子は今以上に明るく、元気いっぱいなすばらしい町になると私は思っています。例えば、もっと色々なイベントをつくったり、年齢の差が関係なく、気軽に誰でも遊びに行ける施設をつくったり、体の不自由な人でもくらしやすいような工夫をしたり、考えればまだ色々なことができるようになると思います。なので私は、これから八王子がより良い町になるように色々な事を考えていきたいと思ったし、今までは地域の行事や活動にあまり参加をしていなかったけど、これからは積極的に参加していきたいと思います。そして今まで地域の行事や活動に参加をしていなかった友達などにも声をかけ、みんなが参加するようになったらうれしいです。

二十年後、八王子市が今以上に、明るくて元気いっぱいで、自然あふれる町になるために、一人一人の努力が必要だということを、この作文を書いて、改めて感じました。私は二十年後、八王子市がどんな町に変わっているのか、今からとても楽しみです。きっと、今以上に良い町になっていると思います。